



東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2025年1月1日発行

第17号 (通巻第337号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

結成十年の成果を全組合員で確認し 更なる飛躍を実現しよう

星山新潟地方本部執行委員長 長年頭 あいさつ

組合員・ご家族の皆さん、新年明けましておめでとうございます。昨一年間、東日本ユニオン運動にご理解とご協力いただきありがとうございました。昨年一月一日に新潟県を含む北陸地方に甚大な被害が発生しました。組合員・ご家族に怪我はありませんでしたが、家屋や家財を被災された組合員がいました。新潟地本として被災された組合員を支える取り組みを提起し、多くの組合員から賛同して

いただきました。元々の生活を取り戻すことは大変かと思いますが、組織全体で支えたいと思います。また昨年は東日本ユニオン結成十年を迎えることができました。顔合わせから始め、取り組みを重

ねながら愚直に労働運動を進めてきました。多くの苦難を乗り越え、東日本ユニオンは大きく成長しました。次の十年に向けて更なる飛躍を実現させましょ



昨年新潟統括センターが発足し、新潟支社では駅・乗務員職場は庄内・新潟・長岡の三つの統括センターに集約されました。会社はこの施策により生産性向上・融合と連携・迅速な意思決定を成果と説明しますが、そこでは働くJR労働者に負担を強いている実態があります。安全・健康、ゆとり、働きがいを守られているのでしょうか。

特に10月から実施された長岡統括センターでのフレックスタイム制導入に対する不満の声が多く寄せられています。フレックス制は、フレックス制を運用できる体制を確立させる必要があります。加速する各系統の体制見直しに対してJR労働者の利益を優先させるために、最優先の視点で取り組みます。

安全・健康・ゆとり・働きがい 守られる労働環境を実現しよう

労働に見合う賃金と手当を勝ち取ろう！

コロナ禍を経て会社業績は大きく回復しました。第2四半期決算における業績は、コロナ反動とインバウンド効果もありますが、社員一人ひとりの奮闘無しには実現していません。業務融合や複数職場に業務融合や複数職場に社員にかかる負担が増加しています。

私たちは労働の対価としてそれに見合う期末手当基準内賃金の3.8ヶ月分を求め交渉してきました。東日本ユニオンの要求に多くのJR労働者が賛同し、本音の声を寄せてくれました。年間6.0ヶ月以上は最低ラインでしたが、続く物価高に

より更なる支給が必要で、複数業務に多くの社員が就く状況において、特定の職種に手当を支給するのではなく、全社員の賃金底上げが必要で、昨春闘以上の賃金引上げに取り組みしていきます。

東日本ユニオンへの加入を呼びかけよう！

東日本ユニオン運動の取り組みを通じて、全国各地で、新たな仲間を迎えることができました。結成から十年東日本ユニオンは労働組合として選択しても合意する組織へと成長したことで、全組合員との力で成長させよう。労働組合への加入を考えた時に選択される組織となりまし

JR労働者の気持ちを見守り、変えることだけを目的に施策を進めた結果、この会社に見切りをつけて退職した社員も多くいます。選

JR東日本労働組合第12回中央委員会
2025年2月6日(木) 12:00~
東京都 北とぴあ15階ペガサスホール
新潟地方本部第11回定期地方委員会
2025年2月27日(木) 12:30~